

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で当たり前の生活を送ることを目標として日本一の優しい介護を目指して法人理念のもと実践に取り組んでいる。	ミーティング時に、理念を達成するために具体的事例を出しながら、職員間で統一を図っています。また、理事長自ら現場にでて職員に日々感じたことを伝えています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が入居しているので必然的に地域の方がたずねてくる。地域行事には見物人としてと参加している。近所の方から声をかけていただいたり、野菜をいただいたりしている。	ご利用者が散歩に出かければ地域住民から声をかけられたり、野菜を分けてもらうなど、地元の人たちにご利用者やホームの存在は充分受けられています。また、ご利用者の親戚や幼馴染がホームを訪れたり、老人会の訪問も行われ良好な関係が築かれています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者との暮らしの相談など、気軽に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	そのように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、市の担当者・包括支援センター職員・ご家族代表などに参加していただき開催しています。前回から当該月までのホームの状況や今後の活動予定などホーム側からの話題提供が主です。双方向の意見交換とまで至ってはおりませんが、運営者は参加者から正しい認知症の理解と普及が得られ、それが地域に波及するよう丁寧な会の運営に心がけています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	そのように取り組んでいる。	運営推進会議の参加を含め担当者とは理事長が窓口となって日常的なやり取りがされています。また、市の要請を受けてご利用者の緊急受入れにも協力している経過から、十分に連携がとれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分がされていやなことはしない、自分がいわれていやなことは言わないというルールを皆が承知しているので、実践できている。	理念の具体的実践として「自分がされて嫌なことはしない」ことを基準にし、ケアにあたっては、理事長、管理者、職員とも身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアを徹底しています。身体拘束に関して内部研修を行っているほか、理事長、管理者は折に触れて身体拘束することの弊害などを職員に話しています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に基づいて行動している。人権の尊重は対人支援の目的であることを理解している。	法人で運営している他のグループホームとも協力してマニュアルを使用した事例検討会を行い、虐待の理解や防止について学ぶ機会を持っています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族との話し合いの中にも含めるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解を得る努力をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等にて承り、反映するよう努めている。	苦情受付に関する文書は玄関先に掲示されており、重要事項説明書にも外部苦情の申し立て機関とともに明記されています。理事長と管理者は、年2回の家族会や日頃でもご家族の話を丁寧に聴くように努めています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に問いかけあっている。	各勤務帯の引継ぎや職員会議など、職員の意見が反映できる仕組みになっており、理事長・管理者・職員間の意見交換は十分になされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カウンセリングなど行い、環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人に合った形で職員教育を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人でも事業所が市内に点在しているため普段会うことのないもの同士があって、互いのホームについて話し合う機会を作り、気づきを高めるよう努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族と話し合い、把握するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機申し込みをいただく際にお話を聞き、把握に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機申し込みをいただく際にそのように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なじみの関係ができており、いい関係でサービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	そのように取り組んでいる。	理事長・管理者・職員は家族面談を通して介護の苦労や困ったことなど可能な限り把握するように努めています。その上で、ご利用者の安寧な暮らしを保つために、ご家族と一緒に利用者を支えていきたいと考えています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように取り組んでいる。	ホームに昔の友達が面会に来てくれたり、馴染みの美容室を利用しているご利用者もいます。また、職員との馴染みの関係を保つために定期的な職員異動も避けるようにしています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日合う仲間として和やかな関係づくりを支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された後も、小物購入やお洗濯などお手伝いをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を尊重するよう努めている。	心情を吐露できないご利用者もいることから、ご家族との話し合いの中からご利用者の思いを把握できるようにしています。事業所独自のアセスメント様式を活用し、ご利用者・ご家族がホームの暮らしに慣れるまで時間をかけ、あせらず把握するように努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	よく聞き取りを行い、入居後もわからないことがあれば問い合わせ、理解に努めている。	ご利用者の今までの暮らし方が良くわかるよう、事業所独自のアセスメント様式を用いて丁寧に情報収集をしています。原則、ご家族から記入してもらいますが、場合によってはご利用者から直接聞き取り記入しています。さらに、ホーム利用前のサービス事業所からの情報を活用するなどこれまでの暮らし方の把握に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職全員で日々の生活からさりげなくは足に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お互いに話し合い反映させている。	通常6ヶ月ごとに介護計画作成が行なわれていますが、大きな変化があれば、理事長、管理者、職員がご家族と話し合いを持ち、その都度見直しを行なっています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なことは柔軟性をもって対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や散歩などなじんだ生活の延長を提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	ご本人・ご家族の同意を得て、原則ホームの協力医院をホームドクターとしています。日常の健康面については医師、看護師、職員およびご家族等とも連絡や報告をしい、十分に連携が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、同法人の多機能やミニ特養の看護職の協力をもらい支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	よい関係ができています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に重度化についてお話し、常に終末についてお考えいただくよう働きかけている。すべてを共有していけるよう努めている。	ご家族と理事長、管理者は緊急時および重度化や終末期について話し合い、独自の様式に記入し、共有しています。特に終末期が予測される時点では、ご家族・医師・理事長・管理者・職員との間で十分に話し合い、意向の再確認が行われ、終末期の方針を共有しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講座、ホームドクターのお話などのほか同法人看護職による講習など行っている。	看護師によって、救急救命に関する知識や応急手当の方法などの職員研修が行われています。緊急連絡の手順や方法は職員に徹底され、連絡網や手順書は見えやすい場所に貼られて日常的に活用されています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に火災予防には留意し手行っている。近所に助力を要請できる環境づくりを行っている。	災害に備え、転倒しやすい食器棚や家具に転倒防止対策が施されています。消防署などと相談し、万一来に備え、近隣の協力や応援を得る対策としてホーム内にサイレンが設置されています。	夜間想定避難訓練がまだ行われておりません。今後計画し、実施されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に基づいて実践している。	広報への写真の掲載や居室に表札をつけることなども法人で検討し、ご利用者・ご家族のプライバシーを損ねることにつながるのを行わないことを徹底しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくそのようにできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全確保以外は受容的対応に徹している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ家庭に近づくよう努めている。	食堂では落ち着いて食事をできる雰囲気職員は、食事場面に相応しい話しかけをしながらご利用者と同じ食事を食べています。また、一人ひとりの状態に応じて調理や片付けなど出来ることを行なってもらえるよう支援しています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日その時に合うよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導により積極的に行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	職員は、利用者一人ひとりの24時間の排泄状況を記録して把握し、それに基づいて排泄の援助がなされています。また、声かけや誘導はさりげなく静かに行なわれています。24時間の排泄状況の把握は健康管理にも活用されています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々記録し努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	努力している。	自宅のような雰囲気のある浴室であり、原則は1日おきの入浴ですがご利用者の希望に合わせて、一人ひとりが夕食までの間にゆっくりと入浴できるよう支援しています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	笑い声が聞こえない日がないよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ支援している。	気候の良い時期には本人の希望や体調を考慮しながら散歩や受診後のドライブなどでかけるよう支援しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方にはそのように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当たり前の生活として支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	共用空間全体は一般住宅と同じように木の質感があり、落ち着いた色調です。食堂には開口部が広い掃きだし窓があり、庭や外の様子が見え、季節や天気の変化を感じることができます。居間のコタツには、テレビが置いてあり、一般家庭のようにリラックスできるスペースです。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	ご家族と相談しながら、その人らしい部屋作りに努力しています。居室のチェストにはご家族の写真やカレンダー、壁にはお孫さんが書いた絵や正月用の虎の絵が描かれた布などが飾られていました。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の工夫もさることながら、介護職の目と手と気配りを支えとして支援している。		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			